

山行報告書

作成:2013年8月6日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	雄山(3003m) [立山・北アルプス]	目的[方法]	登山総合力の向上
期間	7月26日(木)~28日(日)前夜発	形態	夏山縦走
参加人数	5人		

行動記録:

◇7/25(木) 晴れ

岡崎市民病院 PKG(2100) ==3:30== みちの駅安曇野松川 (0030) 就寝 (0130)

7/26(金) 晴れときどき小雨

起床 (0400) 一道の駅発 (0550) ==扇沢駅着: 発 (0615 : 0730) == トローリーバス == 黒四ダム駅発 (0800) ---平の小屋 (1200 : 1220) ---1600m 付近 (1500) ---テント準備完了 (1630) -就寝 (2000)

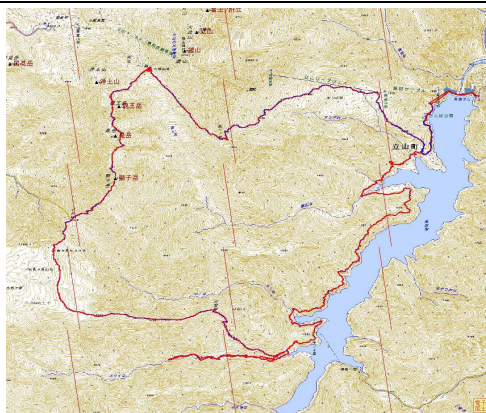
7/27(土) 少雨のち晴れのち雨

起床 (0430) 一天幕発 (0600) ---一般登山道 (0700) ---五色ヶ原着 (1100) ---獅子岳 (1200) ---浄土山分岐 (1430) ---の越山荘着 (1500) -就寝 (1900)

7/28(日) 曇りときどき小雨

起床 (0600) -雄山ピストン (0830 : 0930) ---山荘発 (0930) ---ロッジ黒四 (1240) ---黒四ダム駅発 (1335) ---扇沢駅昼食 (1400 : 1450) ==温泉 (1530:1730) ==岡崎市民病院着(2100)

概念図:



日誌:

天気がよく、これからの山行に期待が高まる。初日は、安曇野 IC 近くの「道の駅」でテント泊をする。自動販売機の不思議な唸り声であまり眠れず。車中で眠った3人は、I氏のいびきで眠れなかつたらしい。「勘弁してくれ〜」とT氏は一睡もできずに夜をすごした。

翌朝、それほど天気は悪くない。身支度をし、扇沢駅へと向かうと平日なのに、すごい人であった。きっと土日はもっと混雑するだろうと思うとゾッとした。バスを待っている間、地元の車掌が、がんばって駅弁の売り込みをしていた。なかなか聞いていて面白かった。黒四ダムは、早朝にもかかわらずすごい人。まさに観光地である。途中、西宮から来た山ガールを含めた3人組みと仲良くなり、平の小屋まで楽しい山旅となった。平の小屋は、可愛い犬が出迎えてくれた。客が少ないせいか、山小屋の従業員はサービスがよかった。天気も大きく崩れていなかったので、ヌクイ沢に入渓することにした。途中、N氏とI氏は完全に釣り人となり、溪流釣りを楽しんだが、ここ最近の雨で水量が多く、イワナの収穫は0であった。先に進むと雪渓が所々に現れ、1600m 付近より上は、完全に雪に埋まっていた。行けそうであるが、雪渓の上での野営になりそうだったので、下って適当な幕営地を探すことにした。かなり下った所でテントを張り、まだ明るくかったが雪渓の水で冷やしたビールで乾杯をし、焚き火を囲んで微睡む…。

2日目。美味しいきしめんを食べ、先に進むか、登山道に戻るか協議をし、劔岳グループに合流するために速く主稜線に抜けたほうがよいということになり、一般登山道に入って先を急ぐことにした。険しい登り坂ではなかったが、久々の重荷に少しばてた。五色ヶ原付近になると、お花畑が広がり、とてもきれいな景観が広がった。N氏やI氏に花の名前をたくさん教えてもらったが、今はもう覚えていない。ただ、食べられる笹「ネマガリタケ」だけは、しっかりと記憶した。湯掻いて柔らかくして食べると美味である。主稜線に出たくらいには、雨が次第に降り始め、14時には、雷を伴う激しい雨となった。浄土山の分岐でT氏が携帯で他のパーティーの動向を確認すると「夏合宿中止」が判明し、自分たちだけしか入山していないこととなった。雹混じり激しい天気になってきたので一ノ越の山荘泊まることにした。小さい小屋で酒を飲みながらゆったりと過ごした。

3日目。朝ゆっくりと起きる。雨は降っていないもののガスがかかっている。あとは下るのみ。地図を見ると、3000m 峰の雄山がすぐ近くにあるではないか…。これは登っておかないと!と、いうわけでY氏は空荷でひとり雄山にピークハントしに出かける。すごい人数で、途中小学生の団体やツアー登山の行列に道を阻まれたものの、何とか何とか登頂した。視界0。ただ、自分の中の自己満足だけが心に残った。一ノ越の山荘からロッジ黒四までの道は、ほとんどすれ違う人もおらず、ひっそりとしていた。雨は降ったり止んだり非常に不安であった。黒四ダムに着くと相変わらず観光地。人で賑わっていた。バスに乗り込むとき、T氏が切符を落とすというハプニングが起こるが、何とか無事に扇沢駅に着く。信濃大町の温泉につかりながら、私たちだけとなった夏合宿の疲れを癒した。

感想:

天候不順であったが、意外に充実した山行となった。夏合宿が、自分たちのパーティーだけになってしまったのは、少しさびしかったが…。テントでの生活や重荷を背負って歩くことの重要性が身にしみてわかった。特にテントでの生活では、N氏からいろいろな生活技術を学ぶことができた。とくに、焚き火の時にターピングテープが着火剤代わりにすることや、山で生える植物が意外と食べられるということを教えてもらい、また一緒に山行に出かけたいと思った。今度、いっしょに山に行ったときは、是非「激辛チャーハン」を食べてみたい。

参加者名	
------	--